

Title	大学を中心とするイノベーション・システム構築に関する研究
Sub Title	
Author	近藤晋(Kondou, Susumu) 中村洋
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2001
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2001年度経営学 第1685号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002001-1685

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	中村 研究会	学籍番号	80028386	氏名	近藤 晋
(論文題名)					
大学を中心とするイノベーション・システム構築に関する研究					
(内容の要旨)					
<p>近年長引く不況の中、日本経済活性化の切り札として大学からのイノベーションにより新産業を創出することが注目されはじめている。</p> <p>このような状況の中、産学官連携に関わる制度や大学と民間企業の橋渡しをするTLO が着々と整備されている一方、産学官連携に活性化の兆しが見えてこない状況にある。</p> <p>本論文はこのような状況を踏まえ大学からイノベーションを起こし日本経済が再び明るさを取り戻すためには大学を中心としたイノベーションシステムを如何に構築すべきかを論じたものである。</p> <p>研究方法としては文献研究と事例研究を用いた。</p> <p>第2章にて過去の文献から米国における大学を中心としたイノベーションシステムの仕組みを分析した。ここで、大学からのイノベーションを引き起こすためには大学で生まれた発明を特許で保護しライセンスするための機能とこれらの発明をインキュベートする仕組みが車輪の両輪のように機能する事が重要である事が明らかとなった。</p> <p>第3章では国内の主要な大学のTLO にインタビュー調査による事例研究を行った。この調査により、TLO の現体制の問題点と限界、つまりTLO の現体制では大学内にある技術シーズを全て収集し選別すること、またインキュベーション機能を保有することが難しいことが浮き彫りにされた。</p> <p>第4章では最終的な結論として前章での分析結果と、事例研究から我が国で大学からのイノベーションを加速させるためには大学の技術シーズを的確に選別、処理し事業化するためのスキームが必要であることを論じその具体的方策を示した。</p>					